

【埼玉】「良い車（トラック）、良いドライバーが全て。車だけ増やしても駄目で、『また来てほしい』と荷主に言われるようなドライバーを一人でも多く育てたい」。高運送（高伊佐武社長、埼玉県和光市）の高裕次郎専務はこう言い切る。冷凍輸送への特化を進め、需要の受け皿となる増車に意欲的だ。

1970年の設立で、大手乳業メーカーの乳製品輸送を5両でスタートした。現在、本社営業所と福島営業所（福島県本宮市）、山

「冷凍輸送」特化、増車に意欲

高運送

車両数と実績が強み



高専務

梨営業所（山梨県甲府市）の計9両を増やす計画だ。冷凍食品、アイスクリームのほか、難易度が高いとされる生ケーキでも10年以上の輸送実績を誇る。大手メーカーなど取引先数は100社程度に上るが、既存車両の仕様だけでなく、ド荷主に対しても「車の空きがありません」と日々の営業を欠かさず、「冷凍車しか生きる道はない。夏場に需要が偏る仕事もあるが、複数の仕事を組み合わせる稼働率を上げている」。品質管理に厳格な荷主と

を合わせて車両数100両を超えて成長。冷凍車が8割で、「東日本大震災後の」という時期だからこそ「高専務」と、ここには3

の計9両を増やす計画だ。

アリゲートな製品を扱うため、品質へのこだわりも強い。従来「4トンは冷気が逃げやすい」ことが課題だったが、冷却効果に優れた冷凍機を搭載した新型冷凍車を導入。昨年は製品の溶解事故ゼロを達成した。

評価される会社めざす



の取引が、結果としてドライバーのレベルアップにつながった。40年間死亡事故ゼロを継続中で、スピードリミッターは4ト車にも搭載。車両規模と輸送実績が強みとなり、引き合いも多いが「車はありませんとかわらない」のがモットーだ。高専務は、「車両数があるからこそ（仕事を）受けられる。車両数を90両から100両にすれば、『10両分の仕事を増やそう』と朝から営業態勢になれる。（荷主に）使ってもらって評価される会社を目指したい」と話す。

（石井 麻里）